



News Letter

対話・協働・変革による
教育マネジメントの開発
学校教育と社会教育の統合

2015/04/01
第3巻 第1号

一般社団法人 教育デザイン研究所, 160-0004, 東京都新宿区四谷 1-21-13
<http://edri-tokyo.com/index.html> Mail: info@edri-tokyo.com
☎ 03-5341-4227 Fax03-4332-2338

はじめに

代表理事 吉田和夫

この News Letter(ニュースレター)をお読み戴けるご縁に感謝致します。このニュースレターの目的は、皆様に本教育デザイン研究所の目指す方向や具体的な取り組み、今後の企画・計画などをお知らせすることです。今年もご縁を戴いた方々に定期的に発行してまいります。

右の項目をご覧になり、ご興味のある部分からお読みください。いくつかの内容に分けて研究所の考えや取り組んでいる事業をご紹致します。

校長定年退職後に立ち上げた本研究所も、早くも3年目となります。まだ十分ではありませんが、今年度は四谷再開発に伴う研究所移転の年でもあり、学校教育、社会教育、そして生涯学習の観点から、学習・教育・人財育成について、少しでもお役に立つような活動ができればと考えます。

引き続き皆様のご支援、ご協力をお願い致します。また、ご相談、ご意見、ご感想など、どうぞご遠慮なくお寄せください。

この号の内容

- 1 はじめに
- 2 最近のトピックスについて
- 3 教師育成道場の取り組み
- 4 英語教育に関して
- 5 校長×社長×交流の会
(教育と組織と人を結ぶ)
- 6 著作など本のご紹介

最近のトピックスについて 私たちの課題は何か

代表理事 吉田和夫

先日の川崎市の中学生殺害事件、川崎市は私の住む狛江市の隣であり、いつも行く多摩川の河原ですので、人一倍心を痛めました。特に私が残念に感じたことは、「もっと人に頼る」ということをきちんと教えたかったということです。保護者や学校を責めても仕方ありませんが、「自分だけで解決」しようとする「自己責任」論ではなく、「自分の手に負えないことはもっと人に頼んでいい」という「人とつながる生き方」をより積極的に指導する必要があったのではないかとこのことなのです。(連載記事「スクール・コミュニティをみんなで創ろう」大版「社会教育」4月号 日本青年館発行より 以下同様)

外資系某企業の人事担当者の方から「今、大学で『スキル』訓練に重点をおいているようですが、生き方に裏付けされない『スキル』をベテランの人事担当者なら、すぐ見抜いてしまいます。『なぜ働くことが大切なのか』を自分のことばで語れるような、『キャリア教育』を提案します。」とありました。

【以下、ご興味があれば4ページをお読みください。】

川崎市の事件をどう見るか

「もっと人に頼ること」・
「人とつながる生き方」
を教えよう

今年合格して、来年は正規の教師になろう！

教育育成塾担当理事 好田 尚子

資質・能力の向上
系統的・実践的な指導
合格への完全保証
8月まで20回の指導

ご興味のある方には
申込みチラシをお送り
します。

《教師としての資質や心構えを磨き、教員試験合格を目指す脅威育成塾》を開設しています。対象は教職希望者（学校時間講師・期限付任用教諭・教職希望社会人等）です。4月から8月までの後期講座（20回）が始まります。

大学等での教員養成を考えると、教員採用試験に合格するためには、これまでのような添削指導、校長や副校長による数回の指導では全く難しいという状況です。

添削指導も必要ですが、それだけでは、一人一人の資質を高め、確実な合格を勝ち取ることはできません！！合格するためには、まず、次のようなことが必要です。

- ① しっかりとした自分の教育・教師論、教育哲学(教育に対する真善美の意識)をもつ！
- ② 系統的で実践的な課題論作文・面接の指導(単なる朱筆の添削指導を越えて)を受ける！
- ③ 確実な合格を目指した個別指導と協働学習(自分一人ではできない場と機会)を行う！

本塾では、昨年度、塾生9人の内7人が一次試験に合格。その7人中6人が二次試験に合格しています。完全合格となるまで、きちんと指導します。

私たちの塾の使命と目的は、単に教育採用試験に合格させることではなく、「4良き教師の育成は素晴らしい未来社会を生み出す鍵であり、教師としての資質を高め、児童・生徒とともに成長できる教師、生きた学びを継続できる教師、質の高い見識と感性を持つ教師の育成に努めること」です。教員採用試験の合格は、そのための不可欠なステップなのです。

日時や場所など

日時：金曜日 19：00～21：30（土・日曜日 16：00～19：00）

内容：講義と演習（グループ討議、実践演習、論文作成）評価（添削・個別指導）

回数：原則として週1回、月4回程度実施 8月まで20回実施 論作文と面接

完全合格保証のため原則として全回参加。欠席の場合は別途追加料金で補講を実施

費用：1回5,500円（消費税8%別）全20回券1割引（100,000円＋消費税8%）

会場費、資料代、印刷代、軽食・喫茶代含む（回数券分割可：ご相談ください。）

指導講師・顧問・会場・申込み

講師：塾長 吉田和夫（玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授、一般社団法人教育デザイン研究所代表理事、埼玉大学非常勤講師、同免許更新講習講師、町田市社会教育委員、法人理事、企業取締役、前新宿区立四谷中学校長）

副塾長 好田尚子（公立学校準常勤講師・元八王子市立城山中学校副校長・元立川市教育委員会就学相談室・元星槎学園高等学校教育相談室長）
その他校長経験者や現職教員の協力あり

顧問 亀井浩明（帝京大学名誉教授、21世紀カリキュラム開発研究会会長）

会場：教育デザイン研究所（新宿区四谷1-21-13千陽ビル3階302）

（JR四谷駅、四谷麴町口、四谷赤坂見附北交差点を渡り、三栄通りを直進、コンビニ [ローソン] 手前を右折 [千陽ビルの看板あり] 千陽ビル3階 教育デザイン研究所（駅から徒歩5分）

申し込み・お問い合わせ 担当 好田尚子(よしだひさこ) お気軽にご相談ください。

TEL:090-382-8021 FAX:03-4332-2338

メール:hisayosi@mbr.nifty.com FAX 03-4332-2338(教育デザイン研究所)



今後、ICTも取り入れていきます。

英語教育の実施に関する調査研究 英語サロン開設に向けて

英語教育担当理事 難波俊樹

文部科学省の高等学校英語科学習指導要領では、「英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする。」とあります。

しかし、実際には英語で授業が実施されている例はまだ少数です。反面、日本の英語科教員にはそのための実力は既に十分に備わっていると思います。

この度、『中等教育における教員の英語による指導のためのコミュニケーション・ストラテジーの確立に関する実践的研究』が、公益財団法人文協会の研究助成を受けました。少し発想を変えるだけで、英語コミュニケーション能力が飛躍的に向上するというビジネス英語の手法を用い、モデル的な研修プログラムを開発致します。

このプログラムは今後開催される「英語サロン」などに活用する予定です。

それに関して、今回、広範に研究調査のための研究協力者を募集致します。

研究協力者には些少ですが、研究調査費をお支払い致します。この取り組みに対してご理解戴き、ぜひ関係者の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本講座の特徴

本講座は英語力や英会話の力を伸ばそうとするものではなく、
既存の英語力を活用するためのコミュニケーション力の向上、
英語を話すことへ精神的な負担・抵抗感を軽減する方法、
より誤解の生まれないコミュニケーションの在り方など、
これらの改善により英語の授業にどのように役立つかを調査します。

講座内容：全4時間（1日での実施）この講座への反応を調査致します。

- ① 英語に対する精神的な障壁（いわゆるメンタルブロック）の解消
 - ② 英語と日本語との言語的な差違・発想の差異に伴う課題解消と言語表出の円滑化
 - ③ 広範なコミュニケーション・ストラテジー及びコンピテンシーの獲得
- ※ 上記に関する、事前事後の効果測定を実施

開催場所：都内（開催日程により会場を調整致します。）

対象：中学校の英語科教員及び英語科担当の管理職
高校の英語による授業に関心のある教員と管理職

謝金：5000円（同一校お1人様まで、調査研究費から支出致します。）

※ご参加は1校から複数の方でもかまいません。

募集人数：30名（各回10名程度を予定）

日程：□ 4月4日（土） □ 4月11日（土） □ 4月18日（土）など
土曜日を中心に5月上旬までの予定です。人数がまとまれば、こちらからご訪問させて頂くことも可能です。

ご興味のある方には、別途申込みチラシをお送り致しますので、ご連絡ください。英語科教員以外でも英語に興味のある方なら参加可能です。



生徒が自らクラスルームイングリッシュを使えるようにするために、教師は何を指導すれば良いか
そのための英語運用はどうすれば良いか
研究協力者を募集します！



キャリア教育からライフ・マネジメント教育へ (1 ページの続き)

私がキャリア教育を大事だと思う反面、現在のキャリア教育に不満があるのは、まさにご指摘の点なのです。それは、二月号から述べている社会人基礎力とも大いに関係があります。特に「チームで働く力（チームワーク）」について、これを人間としての不可欠な要素、というより最も大切な生きる力として十分に教えていないと感じるのです。

現在のキャリア教育の課題が私に「ライフ・マネジメント」教育に導きました。ライフ・マネジメントとは、「自分の人生を自分でデザインし、経営していく」ことです。課題は主に次の点です。

- 1 現在の職業や仕事のみをキャリアとしている点（今ある職業を調べるが、その職業の実際や可変性、新たな職についてほとんど学ばない。）
- 2 未来の夢や展望を重視しすぎる点（多くの児童生徒にとり、夢はあこがれ、職業は漠然、でしかないのに過度に明確にさせようとしている。）
- 3 「今」の大切さを十分に指導していない点。（今、この場に生きること、人とつながること、人から学ぶことこそが未来を生み出すのである。）
- 4 自分の特性や得手不得手、人との違いが未来の自分に直結することを十分教えない点。
- 5 何のための仕事か、その「志」を指導していない点。

そもそもキャリアというのは必ずしも職業ではありません。2013年7月に報告された英国オックスフォード大学の調査レポートによれば、社会のIT化がもたらす雇用に変化に関して、例えば米国の現在の職業702種類のほぼ半分が失われるということです。これは何も米国だけではないでしょう。（原文は次のリンクです。

http://www.oxfordmartin.ox.ac.uk/downloads/academic/The_Future_of_Employment.pdf)

米国では、既に2011年にデューク大学の研究者キャシー・デビッドソン氏がニューヨークタイムズに「子供たちが大人になる頃、その六五％はまだ存在していない職業に就く」と掲載しています。つまり、職業を中心とした進路指導やキャリア教育は既に時代遅れで無理があるのです。

（この点について、ご意義のある方もいらっしゃるのでは存じますが、よろしければもう少しお読みください。）

また、現代の子どもたちは夢や未来への希望がないと言われますが。現実の大人の社会を少し観察すれば、高度経済成長の後、先のことは分からないというのが現実的な判断ではないでしょうか。夢や将来の展望が描きにくくなっているのは大人ばかりではないのです。実現するかどうかを脇に置き、子どもに夢や展望を抱けというのは酷なような気がします。

むしろ「今」を大切にし、人と出会い、関わりをもち、学び会うこと、縁（えにし）を大事にすることなどを教えたいたいです。これは古来受け継がれてきた日本人の優れた考え方であり、もっと見直す必要があります。「今」だけが未来を築き、人生を生み出すのですから。

社会で生きる本当の学力が単に国語・英語・数学などの成績であると本気で思っている人がどれだけいるのでしょうか。単一のメジャーによる人間の分別と選抜が今後どんな意味をもつのか分からないICT (Information and Communication Technology)の時代です。

大学の入試制度を抜本的に変える施策が今後五年以内に実行されます。大学や高校もこれまでに以上に多種・多様なAO入試を開発し、単に成績中心ではなく「伸び代の大きな学生」を受け入れようとしています。今後、自分に自信をもち、得意なことを大いに伸ばす力を学校教育や社会教育で育てていく必要があります。自己の特性や得手不得手をよく理解し、将来に備えていく力を培うのです。

仕事は単に自分が生活するための金を稼ぐだけのものではないはずで、人の役に立つ、社会の中で有意な存在となるための仕事です。つまり「志」ということです。金持ちになってよい家に住み、高い車を持ち回すことは「夢」ではあるかもしれませんが、「志」とはなり得ないでしょう。今はこの「志」を育てる教育が必要です。

さて、そこで登場するのが私の考える「ライフ・マネジメント」力の育成です。ライフ・マネジメントとは「生活経営」であり、自分自身の生活や生き方を自分で経営していくという考え方です。

以下、次のページに続きます。

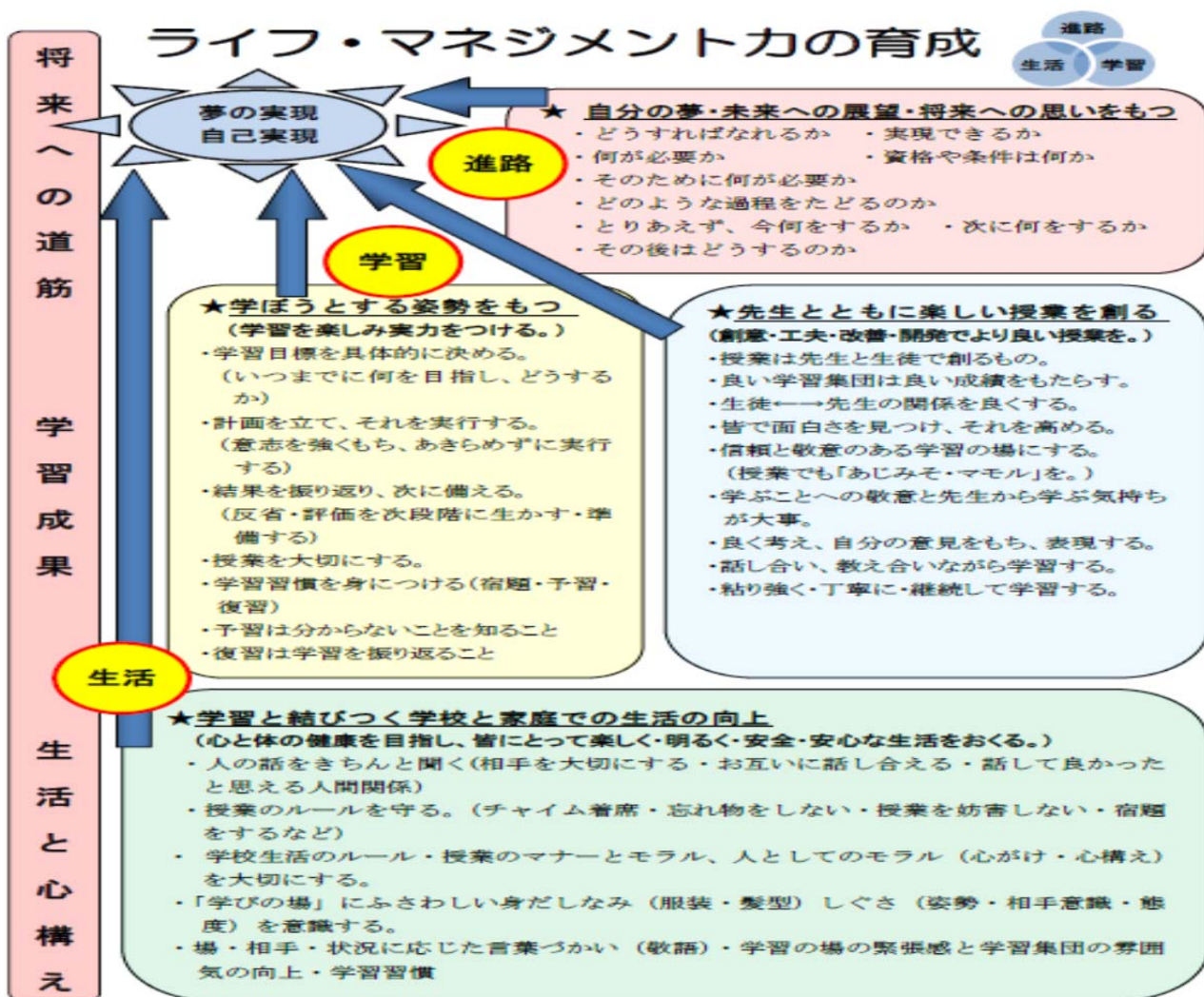
知恵蔵 2015 の解説では、「生活経営とは、個人の視座から生活をマネジメントする方法。行政や市場からの視点ではなく、生活の現場から主体的に選択した目標を実現するため、社会の中で他者と相互に関わりながら、自分自身の能力を開発していく。PDCA マネジメントサイクル(plan=計画/do=実行/check=評価/action=見直し)は生活経営でも用いられる。」(上村協子 東京家政学院大学教授 2007年)とあります。

私が校長であった新宿区立四谷中学校では、平成二十三～四年度、新宿区研究指定校として、「学校と地域で生徒のライフマネジメント力を高める」をテーマで実践研究を行いました。

<http://www.shinjuku.ed.jp/jh-yotsuya/bcd44353.pdf>

自分が自分自身の会社の社長であること、自分が自分の自動車の運転手であることなど、比喩的に生徒に説明しています。(以下、「社会教育」4月号 連載文から引用させて戴いた。)

上記、学校 HP に研究発表会のリーフレットがありますが、下記のコンセプトは平成 24 年作成の四谷中学校「学習ガイド」に掲載したものです。



現在、私自身はライフ・マネジメント (自分の人生を自分で経営する) のためには次のことが必要だと考えます。これが、今回の川崎市の事件について、私の最終的な結論です。

より良い人生を生きるために、次の力が必要であり、教師はこれらをきちんと指導し、高めること。

夢と志をもつ力 = 人や社会のために役立つとする気持ちや志、将来への展望、仕事や夢に向かう力

今、ここで学ぶ力 = 学ぶ力(今)、学んだ力(過去から学ぶ)、学ぼうとする力(未来のために学ぶ)

生き抜く力 = 今を生活する力、今を生かす力、今人をつながる力、人とともに生きる力、人を生かす力

校長×社長×交流の会(教育と組織と人を結ぶ)へのお誘い

交流会担当理事 福岡昌勇武 × 代表理事 吉田和夫

先日、3月14日(土)午後4時から「校長錬成道場(仮題)」という会を実施しました。

実はこれは、「プレバージョン」であり、これから私たちが行う企画の方向性を確認するための準備会でした。

その考えを簡単に言うなら、
これからの校長、あるいは校長を目指す先生は、

- 子供たちが明るく元気に生き生きできる教育環境を創る
- 退職後のキャリアを自ら構築する

ことが必要なのではないかということです。

これからの校長先生には、この2つを実現し、日本の学校を、強いては日本を元気にしていく使命があります。その認識を強くもってほしいと思うのです。

そして、そのために自ら主体的に行動変容を起こす必要があります。そこで、参加者同士が本気でぶつかり合い、切磋琢磨してスパイラルアップして行動変容を起こす「錬成道場」のような組織が必要だと思った次第です。

この取り組みは、一般社団法人教育デザイン研究所と、一般社団法人強みプロ育成協会とが共催して実施するものです。

これまでの異業種交流会(飲み会)である教育ナイトとはひと味異なる新しい学びとネットワーク形成の場を創ろうということです。

先日の会には、2人の校長、1人の副校長の他、教育系書籍や教材の編集者、キャリアカウンセラー、学校現場に詳しいウェブデザイナーなどが集まりました。協議会自体も大いに盛り上がりましたし、その後の懇親会も全員参加で楽しくやれました。

今後、4月下旬を目途に会を開催する予定です。

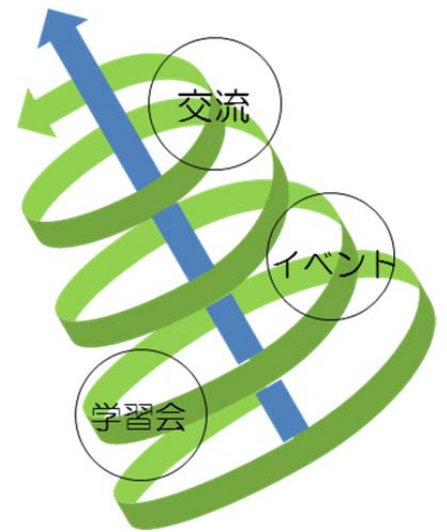
新たな企画名「校長×社長×交流の会(教育と組織と人を結ぶ)」として、社会にイノベーションを起こすことができる、校長と社長を中核としたネットワークを形成し、相互の人間関係を深めて、相互に活用可能な人的リソースを増やし、校長・社長の職を一層、充実させ、今後に活かしていこうということになりました。

ご興味のある方は右の連絡先にぜひご連絡ください。

明日を支える校長・社長を中核とするネットワークを創っていきましょう。

フェイスブックをご利用の方は下記をご覧ください。

<https://www.facebook.com/events/710189175768043/>



著作など本のご紹介

○「なぜ、あの学校は活気に満ちているのか?プロジェクト型学校経営のススメ」東洋館出版 2015年3月発行

(学校を元気にするための本。教師を元気にする学校やリーダーの在り方)

○「これならできる!楽しい読書活動」学事出版 2015年3月発行

(アニメーション、ビブリオバトル、ブックトークなど読書活動を気軽に実践するための事例集)

○「なぜ、あの先生は誰からも許されるのか?同僚・上司、子ども・保護者と上手につき合う」東洋館出版 2013年3月発行

(教員を元気にするための本。どうしたら関係者と上手につき合えるか。)お陰様で、ついに4刷となりました!

一般社団法人
教育デザイン研究所

☎160-0004

東京都新宿区四谷
1-21-13

<http://edri-tokyo.com/index.html>

☎ 03-5341-4227

Fax03-4332-2338